

一般論文

外国人の親をもつ子どもの保育に関する研究

—入所児童数が多い山梨県内の保育所の事例を中心に—

Research on Nursery of the Child who has Foreigner's Parents
—Mainly the case with the nursery center in the Yamanashi prefecture
where a lot of numbers of entrance into a nursery center —

木浦原 えり, 真宮 美奈子

Eri KIURAHARA, Minako MAMIYA

概要

今日、在留外国人の子どもたちが幼稚園や保育所に入園することは珍しいことではない。保育の現場では、さまざまな文化を持つ子どもや保護者との関わりにおいて、課題が生じていると推察される。そこで、本研究では、外国人の親をもつ子どもを多く受け入れている山梨県内の保育所X・Y保育所に着目し、保育士等へのインタビューを通して現状と課題を探った。その結果、「保護者とのコミュニケーション」「子どもとのコミュニケーション」「食事」「服装・生活リズム」「子ども同士の関わり」「異文化に親しむための取り組み」「今後、配慮していきたいこと」において、保育者のきめ細やかな対応がなされていた。

保育をより充実させるという観点から、個々の保育士が抱える一つ一つの日々の課題を集約してみると、日本語が分からない外国人の保護者による入園手続き、全く言語が通じない子どもや保護者と関わる場面が出てきた時の対応の仕方、異文化理解へのさらなる取り組み、入園案内の充実等の今後の課題が見受けられた。

I. 研究の目的

日本における外国人登録者は約208万人¹⁾となっており、今日、在留外国人の子どもたちが幼稚園や保育所に入園することは珍しいことではなくなっている²⁾。山梨県においても、県人口の約1.8%を占める15,101人の外国人が在留³⁾しており、人口千人あたりでみると、全国で13位の多さとなっている⁴⁾。

平成20年度に日本保育協会が行った全国調査「保育の国際化に関する調査研究報告書」⁵⁾によると、山梨県内では、公立・私立の計84園で、外国人を親にもつ児童225人を預かっていることが明らかとなっている。この調査では、国籍別人数については把握できていないとの回答がなされて

いるが、山梨県には、中国(27.3%)、ブラジル(21.9%)、韓国・朝鮮(15.2%)、フィリピン(12.7%)等の多様な国籍の外国人が在留している⁶⁾ことから、保育の現場では、さまざまな文化を持つ子どもや保護者との関わりにおいて、課題が生じていることが推察される。

しかしながら、先に取り上げた「保育の国際化に関する調査研究報告書」での設問「保育上または福祉的に配慮していること、外国人の問題点」について、山梨県は無回答であり、現状を把握できていないことが窺える。また、山梨県内で外国人を親に持つ子どもや保護者に対して、どのような対応がなされているかの具体的な研究は見当たらない。

そこで、本研究では、外国人の親をもつ子ども

を多く受け入れている山梨県内の保育所に着目し、保育士等へのインタビューを通して現状と課題を探ることを目的とする。

Ⅱ. 研究の方法

1. 調査手続き

(1) X市、Y市の公立保育所の保育士等へのインタビュー

外国人を親に持つ在園児が比較的多い、山梨県のX市・Y市の公立保育所に勤務する保育士等21名を対象に、個別にインタビュー調査を実施した。X市では、a保育所8名・b保育所6名、c保育所1名にインタビューを行った。Y市では、d保育所1名、e保育所5名にインタビューを行った。

インタビューは、協力者の許可を得てICレコーダーで録音し、記録をした。その後、インタビュー

の回答を内容ごとに分類し、考察を行った。なお、インタビュー所要時間は、いずれも約30分であった。

(2) 保育所に関する保護者への説明資料の比較

外国人の保護者向け資料について、大阪市と山梨県X市、Y市との比較を行った。

大阪市は、平成20年度に日本保育協会が行った調査「保育の国際化に関する調査研究報告書」において、外国籍の保護者向け資料を作成していると回答した2市のうちの1つである。他より先行して取り組んでいる大阪市の資料と、山梨県X市、Y市で現在作成されているものとを比較することで、資料に掲載を要する情報について検討を行った。

2. 調査期間

2013年6月15日～2013年8月26日

表1 外国人の親をもつ子どもの入所児童数

市	保育所名	外国人の親をもつ子どもの入所児童数						全入所児童数
		0.1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	合計	
X市	a保育所	1名	1名	2名	1名	1名	6名	169名
	b保育所	1名	7名	1名	2名	3名	12名	162名
	c保育所	1名	1名	3名	0名	0名	5名	153名
Y市	d保育所	0名	1名	2名	4名	2名	9名	140名
	e保育所	4名	6名	2名	7名	6名	25名	98名

Ⅲ. 結果と考察

1. 外国人の親をもつ子どもの各保育所における入所児童数

X市・Y市の各保育所における、外国人の親をもつ子どもの入所児童数は、以下のとおりであった(表1)。

2. X市・Y市の保育士等へのインタビュー結果

インタビューにより得られた回答を内容ごとに整理した結果、表2に示す8項目に分類することができた。

以下では、各項目について、保育士へのインタビューにより得られた回答を取り上げ、外国人を親に持つ子どもや保護者に対して、どのような対

応がなされているかについて、現状と課題を探っていく。なお、同じ回答が複数の項目に該当する場合には、その文末に前掲と表記した。

表2 インタビューにより得られた回答の分類結果

- | |
|------------------------|
| (1) 保護者とのコミュニケーションについて |
| (2) 子どもとのコミュニケーションについて |
| (3) 食事について |
| (4) 服装・生活リズムについて |
| (5) 子ども同士の関わりについて |
| (6) 異文化に親しむための取り組みについて |
| (7) 今後、配慮していきたいことについて |
| (8) 保育に関わる保護者向けの資料について |

(1) 保護者とのコミュニケーションについて

表3 保護者とのコミュニケーション回答結果

X市	a 保育所	<p>・向こうの人たちは不安ながらに、自分たちも言葉がわからなくて不安ながら子どもを預けているんじゃないですか、でもやっぱり仕事をしないと生活していけないから、割と外国の方って、延長保育を利用して、朝早くから帰日も遅くまでお子様を預けて仕事をされる方が多いんですよね。子どもも慣れるまで親と離れることが不安だし、泣いたりするじゃないですか。向こうの方もすごく自分の子どもを、日本人の親も同じなんですけど、すごく大切に、やっぱり違う国でつてもあるんだろうけど、あんまり泣き叫ぶ、泣いてる子に対して、泣き叫ぶ子に対して、だんだん保育所にこなくなったりとか、泣くまでしていかなくてもいいや、でもうちの子のことを考えるとこの山を越えないと、例えばどここの保育園、どこの幼稚園にいても、結局はまた同じことの繰り返し…だからそこでやっぱり、わからないながらも、その子のことを考えて、お父さんやお母さんに、私たちの気持ちをなんとか話して伝えたりとか…で、その気持ちがやっぱり伝わると、一緒に、保育者として保育所に慣れるまで、私たちも一生懸命頑張るので、安心して、預けて下さいって。そうなるって、その安心さをちょっとお母さんやお父さんたちにもやっぱり担任とすると、あらわしたいから、朝早く出勤してその子を受け入れてあげたりとか、帰るときもお母さんたちが来るまで、一緒にいてあげたりとか、でも結局延長保育を受けるっていうのは、担任ばかりだけではなく、他の先生たちにも慣れないといけないので、そこがクリアするにはまず園に慣れるってことが大切なので、なるべく担任とか、例えば所長先生とかみんながあなたのことを大事に思っているから、安心してここにきて、安心して1日過ごそうよっていうのをどこかで示してあげたり、親もそういう姿を見てくれると、安心して預けてくれる、もし泣いても、大丈夫、お母さん、泣いても大丈夫ですよ」って言うって、初めは心配して「帰る。」って言っていたお母さんも、「じゃあお願いします。」って、「泣いても大丈夫ですよ。」私たちに慣れてくると、お母さんも泣いている子どもを、心配ながらも置いていってくれる。言葉がうまく伝わらないと、子どもを置いていくお母さんも不安な気持ちがあるから、言葉とは違ったところで、行動で、「大丈夫ですよ」っていうのを見せてあげたいかな（5歳児クラス担当）。</p> <p>・実際に困るとしたら、行事とか持ち物とか、日々のやりとりの中でもなんでも応用きくし、そんなに困らないけど、行事で何時に来てほしいとか持ってきてほしいとか、そういうことがちゃんと伝わっていないと、園全体に差しさわりがでてくるかな。やっぱり行事前っていうと、念を押して、もう一言付け加えて他のお家よりかはわかりやすくしています。伝わっていないと、その家族もかわいそうだし、一回で伝わらないで、何回も伝えた方がいいかなって思います。緊急連絡網を使って迎えに来て下さいっていうような時とかも、なかなか伝わらないから、連絡網も、友だちの家から回るのではなくて、園から直接回すようにしていますね。（4歳児クラス担当）。</p>
	b 保育所	<p>・（保護者が見つけてきた）通訳さんがいるみたいで、分からないことはその通訳さんに結構聞いたりとか、多分お便りとかも見せて、向こうの言葉で説明されて、こちらの方（保育所）に書類を書いて持ってくる形をとっているみたいです（5歳児クラス担当）。</p> <p>・お父さんが日本語が上手なので、お手紙は一切翻訳をしない。カタカナやひらがなで書かなくても大丈夫なんですけど、ブラジルの方は全部カタカナに直して、でもその方も園での生活が長いので大体のことは通じますね。「こういうもの」って言えば伝わるし、分からなければ、「どういうこと？」って聞いてくる。もう一人は兄弟で4月から園に入ってきたので…分からない面がある。日本語は通じるんだろうけど、その意味が通じないというか理解しているのかしていないのかかわからないところ（3歳児クラス担当）。</p> <p>・日常的にありますね。今この話してたけど、違うこと想像してたんだってということが結果的に、それを雑談程度ならそんなにくどくど言い直してお互い混乱するよりは、「あ、そうですね。」みたいな感じで…まあコミュニケーションをとる。伝わらないかな？とか伝わるかな？とかばっか気にしていると、向こうから話しかけてくるってことはそんなに簡単なことではないから、なるべく保育者の方から色々話しかけて、だんだんコミュニケーションをとっていく中で、話してて伝わらなかったとか気まずかったとかで終わると、次につながらないから、重要なことならまだしも、日常的な会話の中ではそれを正して「それは違うよ。」とは言わないでそっちに合わせて話をすすめたりしています（4歳児クラス担当）。</p>
	c 保育所	<p>・会話は多くするようにしていて、紙に書いたりってことが、両親ともにブラジルの家では、カタカナとひらがなは分かるんだけど、漢字がわからなくて、全てがカタカナやひらがなにすれば良いってものでもなくて、ニュアンスとかもあるから、話をして伝えていかないと、書くことでは伝わらない部分があるから、会話を多くするようにしていますね（2歳児クラス担当）。</p> <p>・怪我をした時とか、他のお子さんに対してもそうだけど、どういう状況でこうだったんでっていうように丁寧に説明してあげたり、友だち同士のトラブルなんかも、いじめられたら怖いとか、そういうことを強く思ったりするから、できるだけその状況を説明してあげるとかして、心配しないようにしていますね（2歳児クラス担当）。</p>

Y市	d 保育所	・パルーの家庭は、お父さんは日本語がだいたい分かる。お母さんは全く分かりません。入った時は通訳の方がついてくれて、その通訳の方が日本での滞在期間が長くて、園の様子や行事も分かっているって方で、その方はお父さんの親戚の方なんですけど、その人が例えば園のお知らせを読んでもくれたりして、それをお母さんに伝えてくれて、なにが緊急の連絡がある場合にはお母さんに電話で話しても分からないので、その人を通じてお母さんにとってかたちをとっている。注意するってことは事前に用意してもらおうとか、例えば、夏にプール遊びがあれば、その持ち物はどうかとか、行事があれば、っていう細かい説明は、いつもしていますね。通訳の人がいれば、必要な物とかの絵を見せたり、通訳の方がいない場合の対応は、持ってきている子の荷物をそのまま持ってきて、「そっくりこういう荷物だよ。」って見てもらって準備してもらう。それとか、外国同士の友だちで仲良くなっている所にはその人を通じてお母さん同士で通訳してもらうこともあります（5歳児クラス担当）。
	e 保育所	・外人さんは言葉が通じない人が結構多いから、手紙とかそういうのもローマ字で書いてたりとか、ひらがなで書いてたりとかしている。入園するときに必ず聞くことが、今アレルギーが問題になっているから、アレルギーがあるかないか、ある場合には一回は病院で見てもらって、もしアレルギーがあるようなら証明書をもらおうとかしてもらって調べてもらって、言葉がわからないからどんなことわかるか聞いて、ママの方なら分かる、両方ともわからない、小学校のお姉ちゃんにはわかるんとかっていうことを聞く。ひらがなじゃわかるって場合はひらがなをふってあげて、カタカナがわかるって場合はカタカナをふってあげて、ローマ字ならわかるって場合はローマ字にしてあげる。ポルトガル語を話すお母さんで、よく日本語がわかるお母さんがいて、そのお母さんに、この間夏祭りがあった時に、役員さんに説明するときに「これをポルトガル語で書いてきてほしい。」ってお願いしたら、書いてきてくれて、そういう人がいると助かる（2歳児クラス担当）。

考察

両親のいずれか、入所時のきょうだいが日本語を理解できる場合も多く、必ずしも、すべての家庭に対して特別な配慮を要するわけではないことがわかった。しかし、言葉が通じない家庭や日本語が理解しにくい家庭には、他の子どもや保護者以上に注意して関わるようにしていた。特に、登園・降園時は、保護者との関わる貴重な機会であることから、保護者とのコミュニケーションを取ることを大事にしているという所が多かった。

例えば、連絡帳やお便り等の文章の場合は、文章をひらがなやカタカナ、ローマ字等、保護者が読める表記にして伝えていた。しかし、日本語には言葉のニュアンスが難しく、文章での説明では

理解してもらえないことも多いため、連絡帳やお便りで伝えることよりも、直接保護者と会って話をして理解してもらるようにしていると答える保育士が多かった。言葉が通じなくても積極的に話しかけること、子どもの様子を丁寧に説明すること（c 保育所）、登園・降園時に必ずいるようにすること（a 保育所）など、園に馴染み、安心して子どもを預けられるようにとの配慮がなされていた。日本語を理解している外国人の保護者に協力を求めて、通訳や翻訳をしてもらう（d・e 保育所）といった工夫もみられた。一方、保護者自身も、親戚や近所から通訳をしてくれる人を見つける工夫をしている様子が窺えた。

(2) 子どもとのコミュニケーションについて

表4 子どもとのコミュニケーションについて回答結果

X市	a 保育所	・登所の時にはなるべくゆっくりその子の様子を見てあげたりとか、気付くことがあればほかの子ども以上に声をかけたりしている（3歳児クラス担当）。
		・うちのクラスの子は、やっぱり時々わからないんでしょうね。分かっていたと思っていたんですけど、ここにきてだんだん差が出て、分からないことが多いみたいで、普通に日本語で言うだけだと行動に移せないことがあるんですね。なので、もう一回側に行って、ゆっくり「プールに入るから着替えるよ。」とか、「ここに入っているのを出すよ。」とか、側に行って教えるようにはしているけども、自分がわからないと、拗ねて何もしたくなくなるのが最近あるので、「あ、よくわかってないんだな」っていうのがあるんですけど、分かったふりをしていたのか、私も、今まで気付かなかったことが多かったですね。お兄ちゃんお姉ちゃんがいるので、お母さんともとてもよく分かってらっしゃるし、会話は全部日本語で話していて、お母さんと子どもが話す時もほとんど日本語で話をしているので、『もう大丈夫なのか』と思っていたけれど、やっぱり、まだ理解できていない部分もありますね（3歳児クラス担当）。
		・まだ小っちゃいから特にないかな。生まれつきでの、あっていい差はありますけど（1歳児クラス担当）。

X市	a 保育所	<p>・年長の先生なんかは、工夫して掲示をしてるみたいです。言葉が分からない子に対して、どうやったら伝わるかなって。保育の中で伝えなきゃいけないことを短い言葉で言えるように単語とその読み方を書いたものを掲示して使ってる。これなら子どもたちでもわかるからね（2歳児クラス担当）。</p> <div data-bbox="412 276 761 540">  </div> <div data-bbox="816 276 1167 540">  </div> <p style="text-align: center;">図1 保育室にみられた外国語の掲示</p>
	b 保育所	<p>・まだ2歳児で、まだみんながわからない状態だからみんな同じ感じ。特別なにかあるってことはないですね。中国の子どもは4月生まれで大人で、よく分かっているみたいだけど、ブラジルの子は3月生まれで、言葉も分からないし言っていることも分からないし、日本の3月生まれの子も同じように言葉が分からない。そんなに変わらず、他の子と同じようだねって言いながら、私たちも英語交じりで「NO」とかいけないことはいけないうって言ってますけど、やっぱり他の月齢が同じ子ども同士変わりはないですね（2歳児クラス担当）。</p> <p>・今受け持っている子たちは、小さいころからこの保育所に来ていて、お母さんはともかく、子どもは伝わる状態であるから、例えば一昨年の3歳児は全く日本を語喋らない、日本語を理解していない子が入ってきて、凄く不安だったと思うし、お母さんにしても…それまで日本語に全然触れていない子どもが入ってきて、赤ちゃんなら周りも分からないからだんだん覚える時期になるけど、3歳児ぐらいになると、周りの子がわかってきて、喋れない子が入ってくると、まず私たちがコミュニケーションをとって、情緒が安定して友だちと慣れてくっていうところで、最初の時点でなかなかつながらないから、少し簡単な言葉は辞書を使って単語を調べたり、手や顔でジェスチャーをしてなんとか伝わるかなっていうようなところから、歩み寄って…勉強しようとか思ったけど、保育者が勉強する前に、子どもが日本語を覚えるのが早かった。でもやっぱり、そこは両親が不安だと思うから、少し理解しようとする姿勢を見せるだけでも、違うと思うから。</p> <p>・凄く泣いて、どうしても分からなくて、当時年長さんで、ポルトガル語を喋る子がいて、ただその家と、3歳児はスペイン語だったんだけど、お母さん同士は仲良しで、ポルトガル語とスペイン語が少し似ているらしく、お母さんと呼んで、「あの子泣いてるんだけど聞いてくれない？」って頼むことがある。私たちの前で他の言葉を喋ることに子どもたちは抵抗があるのか、保育者は凄くなって思っで、「喋ってみて。」って言っても言おうとしないから、そっと二人にして聞いてもらった。分かる人がいるだけで安心かな。今はその男の子は日本語が喋れるようになってきた（4歳児クラス担当）。</p> <p>・周りの状況が把握できないかなって思うことがありますね。国籍が関係しているのかどうかは分からないけれど…日本語が分かっているという時点で、指示が分からないってこともあったりするから、いじけたり、遅れも出てくるし、分からないと、動きようがないから、どんどん分からないなりにするとかじゃなくて、固まっちゃう（3歳児クラス担当）。</p>
	c 保育所	<p>・割とできるんですよね。製作にしても、一対一で説明をしてあげるようにはしてますけど、割とできる子なので、他の子の方が大変だったりもするんですけど（2歳児クラス担当）。</p>
Y市	d 保育所	<p>・外遊びでも室内遊びでも、遊びを途中できりあげるってことができなかったり、それをもっとやりたい！って感じで、初めのうちは…で、そこで別行動になっちゃったりってことはありましたけど、だんだん周りが見えるようになってきて、『今片付けの時間だな』っていうのを見て覚えたりしていますね（5歳児クラス担当）。</p> <p>・絵本を見せてあげて、その子は分かるから、年長くらいになると読めるから、これ「〇〇だ！」とかポルトガル語で喋るんですよ。そうすると向こうもこっちに心開いてくれるから、それで、トイレとかそういう簡単な言葉は、お母さんに聞いて、カタコトでも、「トイレ、おしっこでる」とかカタコトなポルトガル語とかを聞いて、日本語も入れながら喋って、コミュニケーションをとって気持ちが通じ合えるって感じですね（5歳児クラス担当）。</p>
	e 保育所	<p>・活動だと、普通じゃ1時間で終わるところを3時間も4時間もかかったりして、みんながまとまらないってことも凄くあるから、外国の子どもたちがいると正直大変。本人も一番大変だと思う（2歳児クラス担当）。</p> <p>・入った時も言葉も通じなくて可哀想だったからスキンシップをとったりしている（2歳児クラス担当）。</p>

考察

未満児では、ほとんどの子どもたちが日本語の習得が未熟なため、外国籍の子どもと日本の子どもを比較しても、月齢が近い場合、それ程違いはないようであった。スキンシップをとったり、直接声をかけたりする工夫はみられるが、特別な配慮をしなくてもよい状況であることが窺えた。また、低年齢から保育所に通っている場合にも、言葉や集団行動に関して、特に課題はないようであった。

しかし、3歳児以上で入所した子どもの場合、保育士の発する言葉が理解できず固まってしまう子ども、泣いてばかりの子ども、他の子どもよりも活動に長時間かかる子どもがおり、「言葉」の壁が保育の中で障壁となっていることが窺えた。

また、保育者が絵本を用いたり、外国語を覚えて子どもとコミュニケーションを取ろうと努力したりする姿が見られるとともに、子どもも周りの状況を見て、今すべきことを感じ取り、保育所生活の流れを覚えていく様子も窺えた。

図1は、保育室にある机の下を利用して、日常会話で使えるポルトガル語を掲示している様子である。言葉の上に読み方が書かれ、誰でも読めるようにすることで、外国人の子どもとコミュニケーションがとれるような工夫がなされていた。その他、文字が分からない子どもにも理解できるように、絵や写真を掲示して行動できるような工夫がなされていることがわかった。

(3) 食事について

表5 食事について回答結果

X市	a 保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・未満児から入っているので食事には慣れている（3歳児クラス担当）。 ・ずっと前の時、ブラジルの方かな？ご飯を持ってくるときに、豆とかビーンズが多いですね。ビーンズご飯とか、豆だけとかで、こっちのおかずを食べる。それでだめじゃないんだけど、本人もそれで困っているわけではない…そこで、保育者が、その国では豆が多くておいしんだよ、よく料理に使うんだよって日本の子どもたちにも教えると、本人も安心して食べられるし、周りの子ども「どうして白いご飯じゃないの？」っていうこともないし、そのあとお母さんとも豆の料理などの話をしたり、お母さんも嫌な思いはしなかった。そのことで、お母さんと話すきっかけになった（2歳児クラス担当）。 ・やっぱり食べ物が初め受け入れられないってことと、味付けが違ったりしたから、保育所での給食とか一番やっぱり、保育所は遠足とかあるとお弁当を用意してもらわないですか？向こうの方はお弁当っていうのがないのか、おにぎりとか、話をしたり絵でかいたりとかして教えたんだけど、自分たちでつくりあげるっていうのがとても大変なことだったみたいで、今はコンビニとかあるから、コンビニのおにぎりを買ってきたりとか、コンビニで売ってるお弁当を、そのまんまそれを家にあるタッパに詰めたりとか、だから自分たちでっていう、多分そういう中で、だんだんお母さん、お父さんたちも、慣れてくる。慣れてきて、最終的には、どんな形でもお母さんが握ったんだらうなっていうようなおにぎりになってみたりとか、お母さんたちがつくったんだらうなっていうお弁当になっていたりとか…お弁当っていう風習がないのかなあって、そう思いましたね（1歳児クラス担当）。 ・やっぱり食べる物とか味付けが全然違うから、香辛料を向こうの方は使うじゃないですか、例えば白米にしても白米の中を日本でいうお水で炊く白米ではなくて、何かそこに香辛料を入れての白米だから、白いご飯さえ食べれないっていう子も昔はいましたね。持ってくるお弁当は、ここは完全給食なので、主食も持ってきてないですけど、よその園だと、主食を持ってくる給食ってところがあるけれど、主食のご飯が、脂ぎったご飯だったり、炒めたご飯だったりとか、白米っていうのがね…やっぱり食べるっていうこととか、習慣ですね…靴下履くとか、一つ一つを教えないといけないっていうような感じですね（5歳児クラス担当）。
	b 保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・最近野菜とか食べてみるんですけど、苦手と言うか食べなかったり、文化の違いなのか分からないけど、お肉みたいなこってりしたもののが好きだから、そういうのは食べるの早いし、お米に初め慣れなくて、最近ご飯をスプーンに付けてリゾットじゃないけど、毎回スープでも味噌汁でもなんでも、すくってじゃなくてかける。そうやってなんとか…やっぱり食の文化が違うんですかね。家庭で食べてるものと違えば、日本の煮物とか食べないですね。4月に来た時は食べなかったですもん。ほんっとに口にしないで、パンだけとか、汁だけとか、自分が食べられそうなものだけ選んで…匂い嗅ぎますね。辛いものだめ、甘いものだめ、今日の給食にでた生姜もだめで全然口にしない（3歳児クラス担当）。 ・他の子とも一緒なんだけど、無理に食べさせるってことはあんまりしないし、だけど、「これ美味しいからたべてこらん。」って言って、ちょっとちっちゃくしてあげて、食べられそうなものは口にすけど食べられないものは「まあいっか。しょうがないか」って。でも、そのうち何回か出てくると、お腹すいているのか分からないけど、安全なものっ

X市	b 保育所	て思うのか、口にするようになったものもあります。慣れもあるのかな。食文化が違うから、親が作る普段家で食べるものしか最初は食べないね。どの子もそうだけど（3歳児クラス担当）。
Y市	c 保育所	・ その子がたまたま、食べるのに時間がかかる子なのかもしれないけど、給食の試食会があって、親子で食べたときなんか、まだいただきますもしていないのに、お母さんも一緒にいるけど、どんどん先に食べさせちゃったりとか、そういうのを見て『あれー？』って思ったりとかしたんですけど。まだ3歳児だからそんなに他の子どもと変わらないんですよね（2歳児クラス担当）。
	d 保育所	・ 最初、一口食べるまでに時間がかかりますね。でも、だんだん日本食も慣れてきたり、最初は野菜がだめで、お肉は好きで、野菜を全然食べなかったんですけど、徐々に増えてきて、今は普通の量も食べられるようになりました（4歳児クラス担当）。
	e 保育所	・ お弁当の時はコンビニで買ったものを詰めている親も多い。掲示物じゃないけれど、お弁当の中身とかを写真に撮って掲示すると、これはどうやって作るの？って聞いてくることもある。年齢が上がっていくにつれて、遠足も何回も経験したりして、だんだんお弁当の中身が変わってくる（2歳児クラス担当）。

考察

食事の面では、どの保育所も食文化の違いについて多くの意見があった。やはり、日本と母国の食事では、味付けが大きく異なったり、マナーの違いがあったりする。始めは食べられるものが限られ、「一口しか食べられなかった」という子どもが多かったが、徐々に量を増やしていったり、保育者の言葉掛けによって食べられるようになってきたり、保育所に通っていく中で食文化の違いも慣れていくようである。しかし、食文化の違いというのは、保育士としても悩むことが多いようだ。外国ではお弁当という風習がない。日本では、遠足やお弁当給食といった行事がある。そのため、お弁当の風習のない外国の親は日本へ来て驚くことが多いようだ。保育士のインタビューから、外国籍の子どものいるクラスで初めて遠足を経験したときに、「日本の家庭のお弁当との違いに驚い

た」という保育士の声が多かった。お弁当の風習のない外国籍の子どもをもつ親は、どんな物をお弁当に詰めていいのか分からず、始めはコンビニエンスストアで買った物をお弁当に詰めて子どもに持たせることも多いようだ。しかし、毎回コンビニエンスストアで買った物を詰めるわけではなく、保育所へ通っていくうちにお弁当を作る機会が増え、日本食の作り方を保育士に聞いて実際に作っている様子から、保護者自身も子どものために努力していることがわかる。a 保育所では、子どもの出身国の食事文化について周囲に話すことで、子どもが安心して食事できる環境を整える工夫がなされている。

相互の食文化が理解できる取り組みがさらに積極的になされることで、子どもだけでなく、保護者とのコミュニケーションをとるいい機会になっていくと考えられる。

(4) 服装・生活リズムについて

表6 服装・生活リズムについて回答結果

X市	a 保育所	・本人は暑いと感じてるのに、マスク、マフラー防寒着を着せられて、荷物もがかわいそうなくらいで、ママにも、「荷物かわいそう、保育園の中は寒くないから大丈夫」と言っても、ママは「かわいそう、心配」っていうのがありますね（3歳児クラス担当）。
	b 保育所	・暑いのに厚着で登園してきた子どもはいた。寒がりでもシャツ着なかったりね。でも「こうだよ」「日本ではこういう風にしてるよ」ってことを教えてあげれば保育園で薄着にさせてあげたりできる。私たちが教えると、素直に聞いてくれる。やっぱり真面目なんだよね（1歳児クラス担当）。
	c 保育所	・4月から受け持っている子たちなので、まだそういったことはなくて、身支度もきれいにしてるし、ただ、中国の子は、ここ（保育園）に履いてくるような靴じゃないなあって思うようなおしゃれ靴を履いて来たり、そういうのはあるんだけど、厚着しすぎるとか、薄着しすぎるってことはないですね。そんなに変わらないですね、みんなと（2歳児クラス担当）。
Y市	d 保育所	・お昼寝の習慣がないみたい。その習慣がなくて育った子は、寝つきが悪かったりするんだけど、それもだんだん園のリズムに慣れてくると、少しずつ寝れるようになってきているかな。（3歳児クラス） ・季節感の違いで、厚着で登所したこともありますね。着てきたものが暑ければ、薄い半そでを保育所に置いていってとか、そういう服とが見せながら…全く分からなければ見せながら対応していますね（5歳児クラス担当）。
	e 保育所	・あまり寝ないですね。夜遅くまで起きていたり、全体的に不規則。変な時に眠くなってしまったり、寝ちゃうとずっと寝てしまったり…その子に合わせてあげたいけれど集団生活だからなかなかね…（2歳児クラス担当）。

考察

日本の気候と母国の気候にズレや季節感の違いから、本人が暑いと感じていたり、汗をかいているにもかかわらず、必要以上に厚着をして登園して来ることがあるようだ。初めのうちは、日本には四季があることや、どんな格好をすればいいのか分からず、心配をする親が多いことがわかった。そこで、保育所側では、厚着をしてきた子どもの保護者に対して、日本の気候や服装について説明をし、保育所では快適に生活できるようにしてい

ることも伝えて、共通理解をしていることが窺える。また、午睡に関してもそういった習慣がないためになかなか寝付けない子どもも多いのだが、徐々に午睡の習慣がつけられるように保育士たちも対応しているという。入所してから、保育所の生活に慣れるまでに母国の生活との様々な「違い」がでてきて、保護者と保育士とが共通理解を図るのに時間がかかるようだ。

(5) 子ども同士の関わりについて

表7 子ども同士の関わりについて回答結果

X市	a 保育所	・そこは自然とその子にもよりますね。ある程度、明るくてすぐ言葉の意味がわからなくてもそのへんに動かない子であると、周りが「遊ぼうよ」って、分からないながらも、子どもたちのその勘でいうんですか？それで遊びだして、子どもたちの中からでも言葉を覚えると思うんですよ。心を開かない子は、保育士の側にいたりとか、泣いて、お父さんお母さんに早く来てほしいっていうパターンもありますし、そこはその子にもよりますけど…性格というか、持ち前というか…（5歳児クラス担当）。
		・それが外国人だからかどうかは分からないけど、どうしてもこのクラスの子は友だちが嫌がることを平気で言っちゃって、友だちも嫌な思いをするっていうのがある。普段一緒に遊んでいる。孤立することはない。日本語が少し違うかなって思ったり、容姿が違うかなって思ったりっていうのはまだ子どもだから、それにこの保育園は外国籍の子どもが多いから周りの子どもは特別視することはない。それも、この地域がながらく外国籍の子どもを受け入れてる雰囲気なのかなと思います（4歳児クラス担当）。
		・やっぱり、（入園児に泣いてばかりの）その子も友だちと関わりたいんだけど、言葉がわからないから関われないことがあるんですけど、クラスにうまくやってける、うまくリードできる子が一人二人いるんですよ。そういう子どもたちの力を借りて、お友だちの遊びの中に誘ったり、一緒に私たちが遊んであげることで、言葉がわからなくても、遊べるんだよっていう、「みんなで遊ぼうよ、遊ぶと楽しいよ」っていうことをね。子どもの力を借りながら、私たちも関わるようにしている（5歳児クラス担当）。

X市	b 保育所	<ul style="list-style-type: none"> 言葉が通じないってところで、手が出る。足が出る。『この子は怖い。』ってなっちゃって奇声を発したり脅してしまったり…そういう子たちで固まるんだよね。外国の子どもたちは仲がいい。パワフルになっちゃうとか一人だとそうでもないけど、3人が一緒にいると活発になる。3人は仲が良いけど、それ以外の友だちとトラブルになったりすることがある。日本の子どもたちも、差別してるってことはないんだけど(5歳児クラス担当)。 普段から仲良くしている。一緒にバーベキューしたとか言っていた。今は他の子どもの名前も覚えて呼び合ったりして仲良くやっている。仲良く遊びだせばいいんだけどね。集団行動は普通にできますね。積極的に友だちと関わる。大人しいって感じではなく、みんな元気がある(5歳児クラス担当)。
	c 保育所	<ul style="list-style-type: none"> スリランカの子どもは、「僕のお父さんはね、カレーを手で食べるんだよ。」って教えてくれて、みんなが「えー!」みたいなことがあったり。すごくよく喋る。打ち解けてますね。顔を見れば、ブラジルの子やスリランカの子は顔立ちがはっきりしてわかるけれど、子どもたちは気付いているのかどうかはわかりませんけど…(2歳児クラス担当)。
Y市	d 保育所	<ul style="list-style-type: none"> 特にはないけれど、一人去年1年間ブラジルに帰ってた子がいて、こっちに帰ってきたばかりの頃は、言葉が分からなくて、困ったこともあったんですけど、もう一人の子が日本語がペラペラで、その子が通訳になってくれて、困ったこととか私に言ってくれたり、その子に伝えてくれたので、子ども同士で通訳してくれる(4歳児クラス担当)。
	e 保育所	<ul style="list-style-type: none"> 外国の子どもがいることで、お互いに共存していくことの大切さとかを学べていい機会になっていると思う。だからいじめとかもなく、外国の子どもは遊びが面白いから、みんなが興味をもったりする。(2歳児クラス担当)。 年長さんくらいになると、友だちが引っ張ってってくれる。マーチングなんかもやってるけど、「今打つんだよ!」とか言って、シンバルをたたくタイミングを教えてあげたり、見てていいと思う。子ども同士で助け合うっていいな。 ○○にいたよ。 とか子どもが私たちに教えてくれる。3歳児でも言えば面倒見てくれる。たまに面倒見すぎて嫌がられて喧嘩になってひっかき傷つくこともあるけど(2歳児クラス担当)。

考察

子ども同士の関わりについてのインタビューでは、必ずしもすべての園で子ども同士が良好な関係にあるとは言い難いものの、外国籍の子どもへの差別意識は見受けられないようである。子どもの性格や日本語の修得状況によって、クラス内での様子に違いが見られることが窺えた。

日本人の子どもから遊びに誘ったり、生活場面で助けてあげたりなど、自然な関わりが見られた

り、外国籍の子どもとの関わりから、異文化への興味へとつながる経験も得られたりしているようである。

その一方で、なかなかクラスに馴染めない子どももや、友だちが嫌がることをしてしまう子どももいる。言葉の壁や文化が異なるなかで生活する子どもへの配慮について、具体的な援助方法を検討していく必要性が窺えた。

(6) 異文化に親しむための取り組みについて

表8 異文化に親しむための取り組みについて回答結果

X市	a 保育所	<ul style="list-style-type: none"> 特にないですね。多分その子自身も日本で生まれてる子だから、もう日本、ここの風習でいいっていうのか、どっか途中で、例えば一旦帰ったりとか、向こうに身内がいるから帰るとかそういうことが一切ないので、向こうに戻ったりとか、里帰りとかもないので、お父さんもお母さんも帰ったとか聞いたことがないで、うちのクラスの子なんか、家を買ったぐらいなので、だからもうある程度ここに永住とまでいなくても、もうここに住む気持ちで家を買ったんじゃないかなって…(2歳児クラス担当)。 ずっと前の時、ブラジルの方かな?ご飯を持ってくるときに、豆とかビーンズが多いですね。ビーンズご飯とか、豆だけとかで、こっちのおかずを食べる。それでだめじゃないんだけど、本人もそれで困っているわけではない…そこで、保育者が、その国では豆が多くておいしんだよ、よく料理に使うんだよって日本の子どもたちにも教えると、本人も安心して食べられるし、周りの子ども「どうして白いご飯じゃないの?」って言うこともないし、そのあとお母さんとも豆の料理などの話をしたり、お母さんも嫌な思いはしなかった。そのことで、お母さんと話すきっかけになった(前掲:2歳児クラス担当)。
----	-------	--

X市	b 保育所	・特にしていないけれど、絵本とかに少し外国のことが書いてあれば話したり、サッカーがどこの国とどこの国がやっていたかとか、日常の会話くらいかな。あとはそんなにはないね（3歳児クラス担当）。
	c 保育所	・特にしてないですね（2歳児クラス担当）。
Y市	d 保育所	・今のところ特にないですね（5歳児クラス担当）。
	e 保育所	・やっている。ハロウィンとか、外国の子どもが多いからってことで、おばけの格好をしてみたり、紙芝居の中で出てくればそれを見せたりしている。おやつも、外国のお母さんたちに聞いて、そういうものを作ってみんなで食べてみて、むこうの味はどんなものか共通理解できるようにしている。そうすると、日本の子どもたちも外国の食文化に触れることができていい経験になる（2歳児クラス担当）。

考察

多くの外国籍の子どもが在籍する保育所でも、異文化の取り組みを積極的には行っていないようであった。

Y市のe保育所では外国籍の子どもが多いことから、ハロウィンの時期に仮装をして楽しむ様子や、外国のおやつ作り方を保護者に聞き、みんなでその文化を共通理解する取り組みがなされて

いた。このような取り組みは、大変興味深いものであり、異文化に親しむよい機会であると考えられる。保育所保育指針においても、「外国人など、自分とは異なる文化をもった人に親しみを持つ」⁷⁾ことが領域「人間関係」における内容の一つとして挙げられていることから、重要な視点であると考えられる。

(7) 今後、配慮していききたいことについて

表9 今後、配慮していききたいことについて回答結果

X市	a 保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・とりあえずひらがなを書けるように…自分の名前くらい書けないと困るので、他の子どもみんなそうなんだけど、名前だけは書けるように。後半になるとひらがなの練習もしていくので、それをやっていけば結構覚えが早い子なので、できるようになるかなって思います。日本語も結構覚えてきたし、ただ、言葉の理解というか言葉の意味が理解できていないから、日本語は意味が難しいから（ニュアンスが違ったり）分かってるかな？って思うことがある。単語と単語は分かってても、それを一つの文章にしていくながら難しい。そこまで求めるのが無理なのかもしれないけど、生活していく中でだんだん理解できていけるかな（3歳児クラス担当）。 ・実際困るとしたら、行事とか持ち物とか、日々のやりとりの中でもなんでも応用きくし、そんなに困らないけど、行事で何時に来てほしいとか持ってきてほしいとか、そういうことがちゃんと伝わっていないと、園全体に差し支えたりがでてくるかな。やっぱり行事前っていうと、念を押して、もう一言付け加えて他のお家よりかはわかりやすくしています。伝わっていないと、その家族もかわいそうだし、一回で伝わらぬと思わないで、何回も伝えた方がいいかなって思います。緊急連絡網を使って迎えに来て下さいって言うような時とかも、なかなか伝わらないから、連絡網も、友だちの家から回るのではなくて、園から直接回すようにしていますね。通じないと分からないけど、なにかどうかで私たちも英語ばかりじゃないし、今また増えて中国とかベトナムとか色々な国の子どもがいて…この地域は経営団地や、外国人を採用してくれる会社が近くて多いとかで、ここは他の園に比べて多いと思う。他の園にもいるけれど、多いと思う。本当は、行政とかと一緒に頑張ってもっと伝わりやすくなる方法とか様式が外国語でできているとかだといいなと思う（前掲：4歳児クラス担当）。
	b 保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの言っている言葉が理解できるように言葉をかみ砕いて、他の子どもたちもまだ分からないから同じだけど、私たちの言っている言葉を理解できるように援助してあげられるように…あと、子ども同士が今ちょうど2歳児なんて子ども同士で関わるのが楽しい。1歳児もそうだと思うけど、子どもたちがお互いよく関わるように、コミュニケーションがとれるようにうまく助言してあげるとか、例えば、おもちゃを貸してとか、「○○貸して。」とかちょっとした援助をして子どもたちがうまく3歳児に上がっていい関わりができて進級できるように気を付けていきたいとは思いますが。あとは、やっていいことと悪いことのけじめをつけることとか、日本人の子どもも同じなんだけど…お母さんたちが怒れないから、そういうことを保育園で社会のルールとして立派な常識として「これはいい」「これは悪い」ってことを小さい時から教えていかなきゃいけないと思っていますね。特に安全面はちっちゃい子だから、危ないことは繰り返し言わないといけないですね…（1歳児クラス担当）。
	c 保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・国籍関係なく、仲良くしていけるようにしていけたらなと。今受け持っている子どもはたまたま言葉が話せて通じるからか問題がないのかもわからないけど、これから言葉が分かって入ってくる子どももいるかもしれないので、そうなったときに、自分自身も少し勉強しながら、その子ども同士の、後、保護者の方同士や保護者に対して、安心して預けて、安心して遊べるように、架け橋じゃないけど、そうしていけるように、自分自身もやりたいなと思います（2歳児クラス担当）。

Y市	d 保育所	・今年年長で就学んだけど、本当に基本的なことなんだけど、トイレのスリッパを揃えとか、もう分かっていると思うんですよね、本人も毎日のことで…手洗いうがいをしっかりするとか、順番を守るっていう再度できるように、繰り返し指導していくことの大切さを心がけていきたい（4歳児クラス担当）。
----	-------	---

考察

今後保育士たちが外国籍の子どもたちに対して配慮していこうと思っていることとして、日本語の獲得がスムーズできるようにしていくことや、国籍関係なく友だちと生活していけるようにすること、日常生活における基本的なことの指導などが取り上げられた。配慮していく点ではどの保育所も似た回答が多く、外国籍の子どもに対しての

みならず、保育所に通う子どもたち全体への配慮としていることとさほどかわりはなかった。

保育士自身や行政側の課題として、今後入所してくる外国籍の子どもたちのために語学力の向上させること、行政との連携しつつさまざまな国の言語に対応した分かりやすい資料等を作成することを求めていることがわかった。

(8) 保育に関わる保護者向けの資料について

表10 保育に関わる保護者向けの資料について回答結果

X市	a 保育所	・入園前に特別にはね、一応入所説明会っていうのはみんな一緒なのね、今までは、外国籍で特別に書類をもらっていたんだけど、今度からそれがなくなったから、それでみんなと同じになったから、具体的に特別取り組みっていうのはないけれど、その人が入所の時の書類を書いてきて書けないとか、っていう人には一緒にカタカナで書いてあげたりってことはちょっとお手伝いをしてあげたりとかはする（所長）。
	b 保育所	・難しいですよ。今、国際交流で冊子を作ってるんですよ。暮らしの便利帳みたいなやつを作っていて、それぞれの国の言葉のやつがあってね、一応そういったことも、保育所に関わることでないんですけど、全体的な物をつくったりしていて、具体的なものをつくったりして、そういう受け入れも、園の方からもそういうのが必要になってくるんじゃないかな。全く分からないとどうしようもないじゃないですか。今のところ、全部ポルトガル語で入所の申し込みをすることになってケースはない。ある程度はやっぱり、こっちの言葉がわかるような状況の中で、受け入れしているって感じですね。全く分からない、通じないってことになると、例えば、主任が細かいことを説明しても伝わらないんでね。「これ持ってきてください。」とかも…今後はそういうことも視野に入れてかなきゃいけないと思いますね（所長）。
	c 保育所	・市でも観光パンフレットを外国版で作ってたり、そういう取り組みっていうのはだんだん需要があれば必要になるかもしれない（所長）。
Y市	d 保育所	・入所説明がわからなくて、後で個別に説明して詳しく伝えますね。後は、日々の送り迎えの時に、違っていたら説明するとか…なにしろ、話をすること大事ですね。ジュエスチャーとか…（2歳児クラス担当）。
	e 保育所	・用紙なんかは、ポルトガル語やスペイン語とかそれぞれ用意しておきます。言葉が分からない方は、通訳の方たちを連れてきて、説明会に参加しますね（園長）。
		・今までは予防接種とか、受け入れ前にする説明をローマ字で書いたり、色いろ工夫してやっていたけれど、難しい部分もあって、市役所の方で、ポルトガル語やスペイン語とかでかかれた文章を作って、Y市では共通に出してくれるようになった。以上児用や未満児用に分かれている（2歳児クラス担当）。

考察

外国籍の子どもがいる家庭のみの説明会等は、どちらの市でも開催されていないことがわかった。入所説明会は全体で行い、説明会后に、分からないことは個別で聞きに来るという形をとっていた。X市では、以前、住民票の中で外国籍の子ども家庭から個別で書類をもらうという形をとっていたが、それがなくなってからは、日本人の家庭の入所の方法と変わらないという。入所説

明会では、外国人の保護者は、通訳の方と一緒に説明を受けるようにしたり、日本語が分かる知人などを頼りにしたりして対応していることがわかった。

X市では、外国人のために生活全般に関わる冊子については、作成しているようである。しかし、入所案内や保育所に関わる内容に関する冊子は、作成されておらず、今後、必要になってくると感じていた。


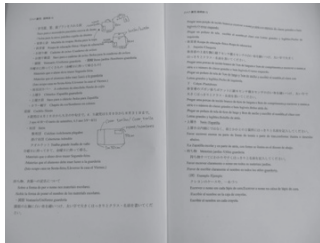
Y市では、これまで保育所独自に工夫をしていたが、外国籍の子どもの受け入れが多くなり、対応が追い付かなくなったことから、市でポルトガル語やスペイン語の文章を作成してもらったという。入所申し込み用紙も外国語版が用意されていることから、市としての対応がなされていることがわかった。

3. 保育所に関する保護者への説明資料の比較

各市から出されている保育所に関する保護者への説明資料の有無については、大阪市、Y市で有るとの回答が得られた。X市については、保育所に関する案内ではないものの、外国人向けにつくられている資料提供をいただいた。これらについて、以下で紹介しつつ、保育に関わる資料に掲載を要する情報について探っていく。

(1) 大阪市とY市の保育所に関する保育所案内の内容比較

表11 大阪市およびY市の保育所案内の内容

	大阪市	Y市
①作成者	作成：大阪市子ども青少年局	作成：Y市公立保育所
②対応外国語	<p>◆英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、ハンゲル語</p>  <p>図2 大阪市「保育所ガイドブック」</p>	<p>◆ポルトガル語、スペイン語</p>  <p>図3 Y市「保護者へのご連絡」</p>
③主な内容 保育所の一日	<p>◆デイリープログラム、保育時間等が記載されている。 例：デイリープログラムについて ・登所、降所時間やおやつの時間等が分かるように時計の挿絵があり、各保育所の時間に合わせて時計の針を記入できるように工夫されている。</p>	<p>◆記載なし。</p>
日常生活	<p>◆①登降所について②服装について③給食・おやつについて④台風で暴風警報が発令されたとき⑤保育所との連絡についての5項目に分かれている。各項目では、注意することや説明、必要な持ち物が記載されている。 例：給食・おやつについて ・保育所の給食（昼食、間食）は、年齢に応じて量、栄養等を考え作られており、友だちと楽しく食べることを大切にしています。 ・はし又はフォークなどを用意してください。</p>	<p>◆園生活についての注意事項やお願い、保育所に必要な持ち物等を記載している。 例：給食について ・月曜日から金曜日まで給食があります。 ・皿、コップを入れる袋（挿絵で寸法等詳しく説明されている）。 例：昼寝について ・3歳児は4月18日から9月の中旬まで。4、5歳児は5月9日から8月31日まで。 布団、敷布団、掛布団等は月曜日に持ってきて、金曜日に持って帰る。</p>
保育所の主な行事	<p>◆誕生会、運動会、生活発表会等の保育園における行事について、どんな行事なのか説明されている。 例：誕生会について ・毎月、その月に生まれた子どもの誕生をみんなでお祝いする会です。</p>	<p>◆入園式についての日時、場所、受付、持ち物について、詳しく記載している。</p>
健康管理	<p>◆健康診断、歯科健診などの検査を、年に何回実施するのかと、それぞれの検査内容について説明されている。 例：身体検査について ・身体検査（体重、身長、胸囲を測定します。） …毎月実施 ※以上の結果は必要に応じて健康手帳に記入してお知らせします。必ず目を通したうえでサインをして返してください。</p>	<p>◆記載なし。</p>

保育料について	◆保育所における保育料の説明, 振り込みの仕方について詳しく記載されている。	◆記載なし。
就学について	◆市内の小学校へ入学を希望する場合の手続きの仕方が記載されている。	◆記載なし。
その他	◆日常生活に関わる会話や単語が記載されている。日本語と各国の言葉とが並べて書かれている。 例: 健康, 給食時によく使う言葉等 ◆日本の四季や季節について, それぞれの気候やどんな行事が行われるかが記載されている。	◆保育所に提出する書類について書類の記載事項に各言語のルビをふる工夫がなされている。

考察

大阪市では, 全保育所に共通の冊子を配布している。空欄部分に各保育所の様子を書き込む形式となっており, それぞれの保育所の一日の様子や年間の様子が分かるように工夫されている。一つの資料で多くの保育所が使用できるようになっていることが分かった。資料が5ヶ国語用意してある点では, 様々な外国籍の子どもの保護者にとって, 非常に利用しやすくなっている。

大阪市にのみ記載されている内容として, デイリープログラム, 災害時の対応, 保育時間等, 健康診断等, 年間行事, 保育料, 就学, 日本の四季等が挙げられる。

一方, Y市が出している資料は, 3・4・5歳児の説明会において使われるものである。ポルトガル語とスペイン語で, 必要な持ち物等が記載されている。説明会に参加できなかった保護者にも, この資料を渡すだけでおよそその内容を伝えることができる資料となっている。持ち物の大きさや名前をつける位置等, 入園まもない時期に必要な情報が挿絵を用いて詳しく説明されている。

2つの市の資料を比較した結果, Y市が出している資料は, 入園してから園に慣れていくまでの, 短期的な見通しが持てるような工夫がなされている。一方, 大阪市の資料については, 年間の流れや, 就学時の手続きなど, 比較的長期的な見通しを持てるような内容が記載されている。外国人の親にとっては, 短期的な見通しはもちろんのこと, 長期的な見通しが持てることで, より安心して園に子どもを預けることができると考えられる。これら2つの資料の特長をあわせることで, 外国人の保護者がより園生活を理解しやすい資料となるだろう。

(2) X市における外国人向け配布資料

X市では, 大阪市やY市のような保育所に関する保育所案内の資料の作成は見られなかったが, X市も独自に外国人居住者に向けて暮らしについての案内の資料があり, 外国人居住者に対し, 丁寧な説明がされている資料となっていた。



図4 X市外国人のための生活安全パンフレット

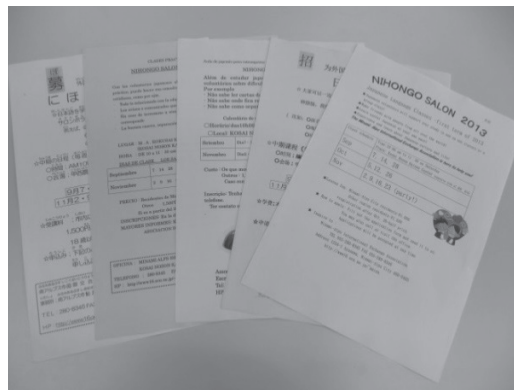


図5 外国人のための日本語教室の情報



図6 X市案内

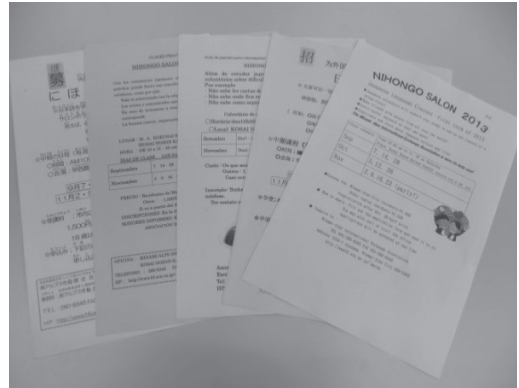


図7 日本語を母国語としない就学期の児童のための日本語教材

Ⅳ. 総合考察

今回インタビューを行った結果から、山梨県のX・Y保育所における外国人の親をもつ子どもの保育については、保育士一人一人のきめ細やかな対応や経験にもとづいた工夫によって、保育が支えられていることが窺えた。例えば、「保護者とのコミュニケーション」では、なるべく直接会話をし、言葉がなかなか通じなくともジェスチャーや分かりやすい日本語に直して話すといった方法をとるようにしていた。「子どもとのコミュニケーション」においても、保育者が仲介役となったり、一人一人に言葉を添えたりして円滑な保育所生活を送れるよう工夫していた。また、日本人の子どもがリードしつつ、助け合う姿もみられた。このような結果からみると、現状では、あまり大きな課題を抱えることなく日々の保育がなされており、これまでの経験と工夫によって、抵抗感なく外国人の親をもつ子どもを受け入れている様子が窺えた。

しかし、保育をより充実させるという観点から、個々の保育士が抱える一つ一つの日々の課題を集約してみると、日本語が分からない外国人の保護者による入園手続き、全く言語が通じない子どもや保護者と関わる場面が出てきた時の対応の仕方、園に馴染めない子どもへの援助、異文化理解へのさらなる取り組み、入園案内の充実等の今後の課題も見受けられた。一人の保育士、一つの保育所という枠を超えてこのような課題を検討して

いくことで、より外国人の親をもつ子どもに優しい保育がなされていくのではないだろうか。

＜引用・参考文献＞

- 1) 法務省入国管理局編2013「出入国管理 平成24年度版」P.18.
- 2) 久富陽子2004「外国人の子どもと保育者」保育学研究42(1)pp.19-28.
- 3) 山梨県観光部国際交流課2013「2010年度 山梨県の国際施策」P.1.
- 4) 山梨県企画県民部統計調査課2013「統計からみたやまなし・平成24年度」P.21.
- 5) 日本保育協会2008「保育の国際化に関する調査研究報告書」P.6.
- 6) 山梨県企画県民部統計調査課、前掲、P.21.
- 7) 厚生労働省編2008「保育所保育指針解説書」P.80.